

## 8. PTRA 施行時の腎動脈穿孔に対し長時間のバルーン が有効であった一例

(戸田中央総合・循環器内科)

茂田 博、芦矢 浩章、榎木 辰次  
波多野嗣久、平出 大、永尾 正

症例：72 歳、男性。平成 15 年 1 月上旬より労作時胸痛出現。冠動脈及び大動脈造影で# 4PD99%、右腎動脈 99%、左腎動脈 90% を認め、1 月 29 日、まず右腎動脈に対し経皮的腎動脈形成術 (PTRA) を試みた。PDBA で拡張し、造影したところ、バルーン先端が当たっていた付近より造影剤のリークを認めた。直ちに 15 分間のバルーンによる止血を試みたが、造影剤のリークは持続するため、Covered Stent を留置したところ、リークはほとんど認めず、胸痛も出現したため、ひとまず PTRA を中止し、# 4PD に対する PCI を施行し、拡張した。その後の腎動脈造影でもわずかな造影剤のリークがあるため、今度は 60 分間のバルーンを試みたところ、完全な止血に成功した。術後腎機能は改善 (Cr 1.7 → 1.29、BUN 29.2 → 19.8)、血圧も低下し、薬剤の減量が可能であった。